

[研究ノート]

## 出産体験の肯定的な自己評価の要因

—実母との関係性に着目した調査報告—

松本亜紀（倫理文化研究センター専門研究員）

### 緒言

本稿は、昨年の本『紀要』第24号に発表した拙稿「妊産婦と実母との関係性が出産体験に及ぼす影響」の続編である。

前稿では、妊産婦と実母との関係性が出産に及ぼす影響とその要因を探り、「豊かな出産体験」をする上での課題を検討した。具体的には、現代の妊産婦と実母との関係性において、助産師がどのような印象を抱いているか、その特徴や気になる点、提供しているケアの内容などを把握する目的で地域助産師に対して実施した調査結果を踏まえ、現代の妊産婦の多くが実母との緊張関係や関係性の違和感を抱えていること、それらが妊娠に対する否定的あるいは消極的な受け止め方をもたらし、出産への不安や恐怖心を増大させていることを指摘した。本稿はそれを承けて、産後の女性の自らの出産体験の受け止め方に注目し、妊娠期の生活実態および心のありようと出産との関連性、さらには、出産体験がその後の育児に及ぼす影響について考察する。

前稿でも述べたとおり、自らが少産少子化時代を過ごした現代の妊婦の多くは、妊娠・出産に関する観察学習がきわめて乏しく、母性性の成熟の遅れが指摘されている。そしてこのような女性の多くは、初めての妊娠・出産・育児を経験する過程で、心身の変化や役割負担に対する戸惑いや不安が高まり、自己受容性や胎児に向けられる感情が低下するとされ、夫や実母など家族や周囲からのサポートの必要性・重要性が求められている。なかでも、女性は乳幼児期からの主な養育者である実母との関係を通して母性性を形成し、また妊娠期には幼少時代の実母の関わりを参考にして、自己の母親像のイメージ作りを試みたり、実母をモデルとして母親役割の模倣を行うことが指摘されており、実際にこの期間に親子関係（実母と娘）が活発化することも指摘されている。また、妊娠を受容する気持ちに夫や実母の影響が大きく作用し、妊婦の情緒面、あるいは生活面をサポートする存在として実母の存在が重要であることもすでに指摘されている通りである。さらには、経済的な支援者としての期待も大きく、妊娠・出産・育児期の女性にとって、実母はもっとも重要な存在であると考えられている。

しかしながら、前稿でも指摘したように、近年我が国では、娘と実母の密着化や、実母の毒親化といった社会現象が出現しており、特に娘の産後に双方の関係が悪化する母娘クライシスが問題視されるなど、実母の存在が必ずしも妊産婦に効果的な影響を与えるとはいえない状況が生じている。

このように、妊娠・出産・育児を含む女性の生涯発達において、実母との関係性の重要性はこれまでも指摘されているが、妊婦が母親としての役割を取得するために必要な実母の役割や、両者の関係性のあり方について十分に検討されておらず、また両者の関係性を定量的に評価する尺度も開発されていないのが現状である。

そこで本稿では、実母との関係性に着目し、妊産婦自身の被養育体験と妊娠・出産に抱くイメージとの関連性、および、自らの出産体験のとらえ方に影響を及ぼしたと考えられる決定要因を明らかにする

ことを目的とする。(中略)

出産に対するニーズと満足度について出産施設の形態毎に比較検討した助産師の村上明美の一連の研究によると、出産の形態、出産時の処置、出産時の環境、医師や助産師の態度に関するニーズや満足度は出産施設の形態によって有意な差が認められるものの、どの施設を選択した女性も共通して「自己の出産に対する総体評価は、ほとんどが「十分満足」「まあ満足」と回答していたという。だがその反面、アンケートの自由記述欄に、自らの出産時の不満や不安を訴える者も多く、結果として、総体的な出産満足度と出産時の女性の思いには大きなズレがあることが明らかにされている。また、母子保健の専門家である疫学者の三砂ちづるは、出産経験を満足度で評価しようとする、結果として「出産が安全であれば出産の満足度は高くなる」ことを指摘する。これらの指摘から言えるのは、出産の総体評価だけではとらえにくい個々の女性の思いを明らかにすることの重要性である。これらを明らかにすることは、出産の価値観が多様化した現代の施設側の対応や出産介助者の質の向上にも役立つものと推測される。

なお、女性自身の変革につながるような「豊かな出産体験」研究では、質問項目の偏りや分娩施設の選定におけるセレクションバイアス、調査対象者の限定（経膣分娩者のみ）がすでに指摘されており、施設内分娩率が99.1%である現状を踏まえると、多くの女性にその示唆を提示できる研究成果とは言いがたい。本研究の最終的な目的は、すべての出産において母親自身が自らの出産体験を肯定的にとらえられるような支援のあり方を提示することである。そこで本稿では、妊婦の心のありようが出産にどのような影響を及ぼすのかという問題意識を明らかにすべく、分娩場所や分娩形態を限定せず、現代女性と実母との関係性に着目してその実態把握に努めると同時に、自らの妊娠・出産体験を肯定的に受け止めている女性たちの語りに着目した調査結果を報告する。